

教会とコンピューター

No.32 January 1998
発行 コンピューター聖書研究同好会

パソコンについて知りたい方
パソコンを教会で使ってみたい方
パソコンをもっと活用したい方
パソコンで聖書の研究をしたい方

本誌はあなたのお役に立ちます

1998年大胆予測

今年のパソコンはこうなる！

Windows98は出るのか？

英語版は間違いなく出るでしょうが、日本語版ははたしてどうでしょうか？

Microsoft社は、1月9日に、Windows98のベータ版の配布を近日中に始める、と発表しました。テスターは一般公募され、その数は10万人にも及ぶそうです。Windows95の時は、ベータ版が3回出されたと記憶していますが、これだけの規模のテストを行い、万一何も大きなトラブルがないとしても、製品版をリリースするには半年以上かかるでしょう。となると、英語版の発売が早くて夏、遅ければ秋口にずれ込むことになります。現在係争中のOSをブラウザの抱き合わせ販売問題も未解決のままですから、こちらのほうがもつれば、更に遅くなるかもしれません。しかし、これはあくまで英語版の話で、日本語版となると、英語版が完成してからおそらく半年はかかるでしょうから、早くても年末か、下手をすると日本語版はWindows99になってしまう可能性もあります。

今年中に出ないとしても、落胆することはありません。既にパソコン誌などで明らかにされているところによると、幸か不幸か、Windows98は3.1が95になったときのような、大幅な改良は行われていないからです。Windows95はあまり誉められたOSではありませんが、一応やるべきことはやってくれるし、このところのCPUの高速化や、メモリーの値下がりや、遅くて重い、という致命的欠陥が目立たなくなっています。また、OSR2(Windows95のバージョンアップ・OS

組み込みのパソコンのみ)や、インターネットエクスプローラー4.0によって、細かい修正や改良は行われてきています。ですから、Windows98がいつ出ようと、我々のパソコンライフには、あまり大きな影響はない、と言い切って良いと思っています。

10万円パソコンの出現！？

昨年アメリカでは、\$1000パソコンが飛躍的にシェアを伸ばしました。これは、ハードウェア全体の性能がアップし、低価格になったお陰で、\$1000以下でセットを組んでも、十分実用に耐えるシステムになるようになったからです。日本でも、10万円パソコンを作って売り出すことは十分に可能ですが、儲けの少ないこの領域に、いったいどのメーカーが最初に踏み込んでいくか、そこが問題です。しかし、以前にも誌面で述べたように、10万円を切ってこそ、パソコンも「家電」の仲間入りができるわけで、需要の落ち込んできた今こそ、10万円パソコン、いや「ゴーキュッパ」パソコンの出番だと、声を大にして叫びたい気持ちです。今年中に絶対出る、と確信しています。

DVDは普及するか？

97年、鳴り物入りで登場したDVDですが、全くと言って良いほど普及しませんでした。いくら画像や音が良いからといって、ビデオでそこそこ楽しめる映画を、10万円も出して見ようとは誰も思わなかったのです。でも大丈夫。DVDは、パソコンの記憶媒体としてこそその真価を発揮するからです。4GBという圧倒的な記憶力は、パソコンに本格的な動画時代の幕を開けることになるでしょう。しかしそのためには、百科事典ソフトや、語学学習ソフト、鮮明実写画像のゲームソフトなど、DVDならばこそ可能になるソフトを、どんどん出してもらわなければなりません。となると、問題は、それを作る力と、買う力を支えるだけの経済力をこの国が持ちうるか、と言うことになりそうです。このまま景気が落ち込めば、DVDもLaserDiskの二の舞を演じてしまうことになりそうです。

聖書ソフトはどうなる？

3年前、恐る恐る世に出た「J - ばいぶる 1st」でしたが、今では聖書ソフトの定番として、クリスチャンのかたはもちろん、そうでないかたにも知られるようになりました。その後相次いでリリースした、「J - ばいぶる 2nd」「J - ばいぶる 3rd」「聖書の達人」も、好評をいただき、順調に広まっています。残る地図ソフトと言うことになりますが、こちらのほうも現在企画から製作段階に入っております。詳細は次号以降でお知らせしますが、今年の夏までには発売にこぎ着けたいと願っています。ご期待下さい。（編集長）



「J-ばいぶる」改良道標 '98

能城一郎

「J-ばいぶる」シリーズの一応の完成以来、ユーザーの皆様から「改良」の要望が数多く寄せられています。これらを検討し、1998年内には「J-ばいぶる(以下、JBと記す)」シリーズのパワー・アップ版の完成を目指して、動き始めています。

そこで、今回から、開発チームが検討していることを断片的に連載してお知らせ致します。「旧約続編」「JB2 - 32ビット版」「JB3-コンパクト版」「スーパーJB」等について書いてまいります。さて、最初は、「続編」についてです。

「続編」 - JB に搭載できなかった理由

「新共同訳」には、旧約聖書「続編付き」のものとならないものがあります。このいきさつについては、新共同訳聖書の「序文」に以下のように解説されています。

敬語を用いたということ、今一つは、従来、日本聖書協会が発行してきた旧新約全巻としての聖書とともに、「旧約続編」をも入れた版と二種類の版を刊行したことであります。

旧約続編は従来、第二正典、アポクリファ、外典などと呼ばれてきたもので、紀元前三世紀以後、数世紀の間に、ユダヤ人によって書かれたものです。それらは、現在のヘブライ語の聖書の中には含まれていませんが、初期のキリスト教徒は、これをギリシア語を用いるユダヤ教徒から聖なる書物として受け継ぎました。この部分についてのカトリック教会の評価は定まっていますが、プロテスタント諸教会の間では必ずしも一定していません。

さらに、くわしくお調べになりたい方は、参考書(1)(2)をお読み下さい。

JBの開発段階では、「続編」を搭載する予定でしたが、しかし、以下の3つの理由で、搭載が見合わされました。

電子ブックの新共同訳とTEVのデータは、他のものと比べ多くの情報を含んでいるために、その整理とJB用データへの変換、検証作業にこのほかに時間がかかりました。そのために「続編」データに取りかかる時

間がありませんでした。

本誌の第1号からお持ちの方は、お分かりと思いますが、JBの原型は「日本語訳翻訳比較研究ノート」でした(1,2号参照)。「続編」の日本語訳で、電子化されているものは、新共同訳のものしかありませんでした。「読む」「語句検索」ならば、電子ブックで出来ました。また、すでに多くの方は、PCにデータを読み込んで使用していました。

CBECの開発メンバーは、当時は皆プロテスタントの牧師たちのみでした。「新約聖書」の背景を調べる資料として「続編」を読むことはありますが、教会、宣教の現場では、それを使用することことは非常にまでにしかありません。「プログラムする」ことは、まずはじめに「目的を熟考する」ことです。私たちは、「続編」のすべての利用「目的」を知らない者たちでしたので、軽はずみな「続編」プログラムを作成したくなかったのです。

以上が、搭載できなかった理由です。

しかし、JB発売当初から、「続編」を搭載してほしいとの要望が数多く寄せられています。我々としては、主が道を開いて下さり、「続編」を利用されているカトリック側との「交わり」の時が与えられるのを待ち望んでいました。感謝なことに、その道を「新共同訳」の新約部門の重鎮の中村和夫先生(西南学院大学)が備えて下さいました。中村先生が、「共同訳」「新共同訳」と長年お交わりをされてきたZ.イェール先生(サンズルビス大神学院)のところで、カトリックの信徒の皆様、司祭の方々と共にJBの講習会を開くようにして下さいました(1997年12月)。

そこでのエピソードです。「カトリックの信徒の方が、JBを使い、まず初めに聖句検索をしました。選んだ言葉は、自分の「洗礼名」でした。ところが、いくら検索しても出てこないのです。実は、この方の洗礼名は、第二正典が採られていたので、「続編」の搭載されていないJBでは、検索されないのは当然のことです。しかし、この方は、非常にガッカリされたそうです。」

「続編」をカトリックでは、どのように使用するか?その部分的なこと(教会暦のいつにどこを朗読するか)は、参考書(2)で分ります。今回、Z.イェール先生を通じて、「続編」の使い方を「伝授」して頂きました。その方法で「続編」を今読み直しています。JBに「続編」が搭載された暁には、「読む」「語句検索」だけでなく「朗読日程」のデータ・ベース機能も付いたものになります。現在、東京の「フランススコ会研究所」の力をお借りして「朗読日程」データ・ベース作成に着手した所です。

参考書

- (1) 聖書 新共同訳について (財)日本聖書協会 1987年
- (2) 新共同訳「旧約聖書注解・続編注解」日本基督教団出版局 1993年『続編概説(石川康輔)』

COMPUTER TECHNIC

堀川 寛

保存装置について

パソコンを長く使っていると、文書や画像、ホームページなど、保存しておきたいファイルが多くなっていきます。ハードディスクに保存しておくだけだと、壊れたときが心配ですから、当然バックアップを取っておかなければなりません。しかし、フロッピーディスクですと、すぐに一杯になりますし、大きなファイルだと一枚に入りきれないこともあります。そうなること必然的に、大容量の保存装置が必要になります。今日は、すでに市場に出回っている数種類の保存装置について説明しましょう。

MO(エムオー)

最も普及している記憶装置です。装置自体もメディアも安く、光で読み書きするためにメディアの信頼性も高いので、データのバックアップ装置としてはうってつけです。書き込み速度が遅いのが難点ですが、数MB単位のファイルであればほとんど気になりません。読み出し速度はHDより少し遅いぐらいで、ソフトの起動にも使えます。ただ問題は、パソコン本体とつなぐために、SCSI(スカジー)と呼ばれるインターフェイス装置を付けなければなりません。装置といってもただのボードで、ノートパソコン用にはPCMCIAカードがあります。値段は安い物で1万円ぐらいでしょうか、それとSCSI用のケーブルが5千円ぐらいします。ただ、SCSIを持っていれば、スキャナーやHDなど他の装置も付け足せますので、1万5千円は決して無駄な投資にはなりません。結論としては、これからパソコンを使い続け、確実なバックアップを求めておられるかたには、最適な保存装置と言えます。

ZIP(ジップ)

MOとは異なり、FDやHDと同じ磁気を媒体として使っています。SCSI仕様の物もありますが、プリンターポートを使う物が普及しています。SCSIの投資が要らず、ノートパソコンでもデスクトップでも気軽に接続できるからです。読み書きの速度も速く、HD並みです。ただ問題は、プリンターポートを使う物の場合、ZIP監視用のソフトが他のソフトに影響したり、プ

リンターとの相性が悪い場合は、プリンターが誤動作することもあるようです。メディアはMOに比べると高額ですが、バックアップの量が多くなければ問題ありません。初期投資を少なくして、時々使いたいかた。あるいはノートパソコンとの共有を考えておられるかたには良い保存装置と思います。

PD(ピーディー)

ナショナルを中心に広まった保存装置です。CD-ROMと一緒にしているので、小型のデスクトップなどには有効です。一枚の容量もCD-ROMと同程度なので、大きなファイルの保存には向いています。しかし、メディアが高いのと、書き込み速度が遅いこと、それに普及率が低いというのが難点です。システムを拡張せず、自分だけのファイリングに使うのならOKです。

CD-R(シーディーアール)

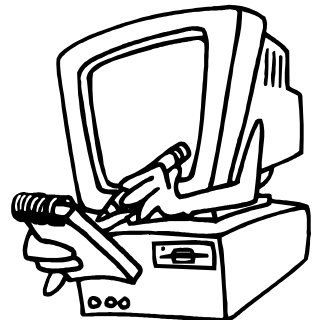
書き込めるCD-ROMのことです。装置も安くなってきましたし、メディアも安いです。しかし、書き込みは一度だけで、書き直しはできません。永久保存用のファイルには向いています。

LSドライブ(スーパードライブ?)

ナショナルから出ているFDと一体になった120MBの外部記憶装置です。FDも付いていない小型ノート派には便利なハードです。

結論

どれも一長一短があり、これが絶対良いというのはありませんが、まとめてみるなら... 安く、取り扱いも簡単で、とりあえず使うのならZIP。多少金もかかり、接続がめんどうだけれど、これからのことを考えるならMO。バックアップは減多にしないけれど、最初からパソコンに付いているのならPD。モバイル派で、FDも外付けになっているのならLS。こんな所でしょうか。ちなみに小生はMOを2年以上使っており、動作不良やトラブルは一切なし。大変重宝しています。



電腦最前線

- 秋葉原のウラ事情 その五 -

津田 仁 (TMC)

自分のドメイン名でインターネット接続

いつものように締め切りぎりぎりまで原稿を書いていてふと窓の外を見ると一面の銀世界です。秋葉原では雪など関係なく安いパーツを求めてきょうもおたくたちが百鬼夜行ですが戦後50年を過ぎて男女平等思想も十分に行き渡ったはずでしょうになぜDOS/Vパーツを探し求めて歩き回っているのは男性だけなのでしょう。アルバイトの若い女性にその疑問をぶつけてみたら「そのようなことは考えたこともありません。」と一蹴されてしまいました。たまたま妙齢の美人が町角にたたずんではいるのですが大抵がパソコンの販売促進のために日雇いで雇われたコンパニオンさんなのでした。また横道にそれてしまいました。今回から専用線によるインターネット環境構築について書いていきたいと思います。TMCではOCNエコノミーを昨年の10月に契約し自前ですべての環境を作り事務所内のPCはすべてインターネットにつながっています。最低限必要な構成でどれくらいの手間とどれくらいのコストがかかり今までのダイヤルアップとどのように違うのかについて理解されるきっかけになればと思います。ある教会または教団で独自ドメインを持つ専用線インターネットを導入するというテストケースを仮想してみます。これは計り知れないメリットをもたらします。例えば希望する信徒の方にその教会のドメイン名でメールアドレスを好きなだけ与えることができます。接続業者依存のメールアドレスから解放されるだけでも気分のいいものです。

ドメイン名を決める

NTTのOCNに申し込み依頼をしますと申込書が送られてきます。いろいろ細かいことを書かなければならないのですがまず決めるべきはドメイン名です。TMCドメイン名はtmc-japan.co.jpです。tmc.co.jpは別の大きな会社がすでに登録済ですので使えません。仕方なく-japanをつけました。ドメイン名は早いもの順です。会社の場合は当然会社名をつけていますがうかうかしていると似ている社名を持つ他社に取られてしまうこともあります。またわざとその名前を先に登録しその名前を使いたい会社に権利を売のような

ちょっとグレーな話も時々耳にします。銀座や上野に店がある老舗の某デパートが自社の名前をどうみてもその名前とは関係のない別の登録者に先にとられてしまったというのは有名な話です。某デパートさん、ぼーっとしているからです。おっとまた横道にそれました。日本ではJPNICという団体がドメイン名を管理しています。JPNICへのドメイン名申請はNTTが代行してくれます。

必要な機材を買い揃える。

中古のDOS/Vパソコン一式。486マシンで構いません。

DSU内蔵のルーター。5万円を切っていると思います。

HUB。6ポートのものであれば5000円くらい。ネットワークアダプター。パソコンの台数分必要です。一枚2000円くらい。

ネットワークケーブル。5mもので5000円くらい。これも台数分必要。

なんだか難しそうですがはっきり言って難しいです。特にメールサーバーとDNSを設定するためのUNIXマシンを作りこんでいくところがちょっと難しいと思います。目的は専用線によるインターネット接続を独自のドメイン名で行うということです。インターネットに接続している方は大勢いらしゃると思います。ほとんどの方がプロバイダーと契約をして固定または従量料金を使用料として払っていますが専用線インターネット接続を自分のドメイン名で行うことは自分がプロバイダーと同じレベルになるということなのです。かかる費用と受けるメリットのバランスをよく考える必要がありますが中規模以上の教会または神学校ではメリットの方が大きいのではないかと思います。これから何回かに渡って用語の解説から実際のネットワーク設置までをできるだけ順番を追って書いていきたいと思います。インターネットに接続することがどういう仕組みなのかを知っておくことは大袈裟なたとえかも知れませんが現在私たちがその只中に投げ込まれている情報化革命への参加の仕方を決定付けると言ってもよいのではないかと思います。内容も若干専門的になりますができるだけ多くの方に理解していただけるようにそして原稿が遅れないように教会とコンピュータが紙で提供される最後の号で完結するようにしていきたいと思います。

購入する機材は、前述のものだけです。NTTへOCN加入の申し込みをすると3週間から1ヶ月後に工事が行われます。工事の人が帰ったあとはローゼットがぼ

INTERNET 未来予想図

gospeljapan ウェブマスター 宮崎光世

インターネット未来予想図 1998

NXPIXP がこけたら・・・

もはや多くの人があたりまえのように使っているインターネットですが、つい最近まで「いつかパンクするだろう」「そんな世界的ネットワークができるはずがない」という声が少なからずありました。しかも技術者の間からです。現在ネットサーフィンやメールはすでに生活の一部になり、使用している一人一人にとってはテレビや電話と同じようなあたりまえの存在になりつつあります。が、実は「パンクするだろう」という指摘はまだまだ過去のものとはいえません。ご存知のようにサーバーはまだまだ不安定で、急増するアクセス増に対処しきれない状況ですし、ネットワークもまだまだ脆弱です。例えばNXPIXPとは日本の有力プロバイダが相互乗り入れするインターネットのセンター的な場所ですが、ここがこけると日本のインターネット全体のトラフィックは急激に悪化します。また、「ウェブサイトには役立つ情報が無い」「他人の日記を読んでも意味が無い」「フリーには限界がある」そういった発言もありました。この一年、多くの魅力あるサイトが登場しましたが、これらの発言にうなずく人も多いことでしょう。

これからもブームで盛り上がったたり人々に飽きられたり、評価はコロコロと変わるでしょうが、インターネット自体は変わりません。不安定ですしジャンクな情報も多い。しかしインターネットが世の中に登場したときに多くの人々が受けた「新しい技術がもたらす社会の変化」についてのインスピレーション、そしてその根拠といったものも変わっていないことも確かです。

つんと置かれているだけ。その向こうが常時世界につながっているのです。すでに料金も発生しています。さあ一刻も早く環境を作り上げましょう。来月は基本的な用語の解説をします。以前に宮崎さんが書いてくれたものと重複するかも知れませんが。ルーター、IPアドレス、ネームサーバー、メールサーバー、この4点についてできるだけ分かりやすく触れていきます。

「まぐまぐ」の成功

ビジネスリーダー等と言われる人々は口ではいろいろと言いますが、自分の発言も含めて、常に固定観念にとらわれないように心のリフレッシュしています。つねに行動の根拠に立ち返っては自分の目標の実現に向けて突進するのです。世の中の評価やトレンドといったものは波のように揺れ動きませんがそれと同調してはその波形を突き抜けて直線的に目標に向かっていくことはできません。

昨年、大きく成功したサイトに「まぐまぐ」<<http://www.mag2.com>>というウェブ・アプリケーション・サイトがあります。これはある若いエンジニアがインターネットから受けたインスピレーションに忠実に従ってつくったしくみです。「個人の情報発信を助けるアプリケーション」というコンセプトは昨年成功したサイトに共通するものだと思います。

一方それほどのもりあがりを見せなかったのは「ブッシュメディア」だと思います。ネットスケープのネットキャスターにしる、マイクロソフトのアクティブデスクトップにしる、昨年疑いもなく「未来」を感じたプロジェクトが、今はとても色褪せて見えるのはなぜでしょう。「まぐまぐ」のとても「インターネット的」な成功の影にあるのは、やはりインターネットというメディアの深い理解でありましょう。といってもそんな難しいものではなく、そのセンスを体で理解していたこと、そのセンスに忠実にものをつくったということにあると思います。

さて私たち一人一人の発信者はどうすればいいのでしょうか。インターネットの表面的なもりあがりの中でその弱点を忘れ、弱点と表裏一体にあるその強みをいかせずに時を逸してしまう、あるいは傍観者的に眺め、批評を加えるだけにとどまってしまう、結果、すべてがバラバラに...非常にもったいないことです。これからも多くのクリスチャンがネット上に登場し、裾野の広がりはこれからも果てしなく大きくなっていくでしょう。そしてその芽が吹き出したなら一人一人が自覚的に、相互補完的に一つの体に向かうように自らの情報発信のあり方を考えていくべきではないでしょうか。全員が口ではない、全員が目ではない、まさにキリストをかしらとする一つの体に向かって一人一人がその細胞として結集していくべきでしょう。クリスチャンによるインターネットも草創期を過ぎた今年、1998年はそういった動きがはじまる年になってほしいと思っています。

 k o s e i m i y a z a k i



MAC NEWS

本田 勝宏

ファイル圧縮について

前回、ファイルメーカー Pro によるリレーションについて述べました。いかがでしたか。何かで試されたでしょうか。ところで、できあがった本誌を見て、何とあわててキーをたたいてるのだろう、と自己嫌悪に陥っています。前回もミスタイプが結構ありました。申し訳ありません。今回は、落ち着いてキーをたたいているつもりです。

で、今回の記事は・・・ファイル圧縮ソフトについてお話ししましょう。私が MAC で使っている圧縮ソフトは StuffIt (図 1)、CompactPro (図 2)、MacLHA (図 3) というものです。StuffIt には関連ソフトで DropStuff (図 4) や StuffIt Expander (図 5) があります。StuffIt Expander は Netscape Navigator をインストールすると、必ず同じフォルダーの中にインストールされますので、見たことがあると思います。インターネットから、圧縮したファイルをダウンロードすると、設定をしておけば必ず StuffIt Expander が起動してファイルを解凍してくれます。

何で、これだけの種類が必要かという、StuffIt はインターネットにアップしたり、ダウンロードしたりするのに必要ですし、CompactPro は圧縮したファイルを分割する機能が付いていますし、MacLHA は Win ユーザーの人とファイル交換をするときに必要だからです。そして、ファイル圧縮をするのは、少しでもデスクの容量を確保したいからです。そこで、ファイル圧縮の方法をお話ししましょう。

まず、StuffIt から。これには二つの方法があります。第一に、DropStuff を使う方法です。これはシェアウェアで配布されていますので、雑誌のなどのおまけの CD についてくると思いますので、見逃さないで下さい。圧縮したいファイルを DropStuff のアイコンに重ねるだけで圧縮を始めます (図 6,7)。もう一つは、StuffIt を起動してファイルメニューから「New (新規)」を選び、Stuff ボタンを押せば圧縮するファイルを聞いてきますので、圧縮ファイルを指定してやれば圧縮を始めます。アーカイブウィンドウの左下の「Self Extracting」にチェックを入れておけば、StuffIt がなくても、自己解凍するファイルになります (図 8)。

CompactPro も、基本的には同じ方法です。ただ、ドラッグ&ドロップで圧縮してはくれません。起動し

たなら、書庫メニューから「追加」を選び、圧縮するファイルを指定します。そして、ファイルメニューから保存を選び、保存する名前を付けて「保存」をクリックすると圧縮を始めます (図 9)。保存の際に「自己解凍型」にチェックを入れておくと、CompactPro がなくても解凍することができます。

MacLHA はドラッグ&ドロップで圧縮を始めます。圧縮したいファイルを選んで MacLHA のアイコンに重ねますと起動しますので、「Save」ボタンを押せば圧縮を始めます (図 10)。StuffIt、CompactPro、MacLHA、どれでも圧縮したファイルの名前をきちんとつけることをお忘れなく。

ちなみに、8.8MB の同じものをそれぞれで圧縮したときのファイルサイズは、StuffIt が 1.3 MB、CompactPro が 1.7MB、MacLHA が 1.4MB でした。約 9MB のファイルがフロッピー一枚に入る容量になります。これで、バックアップを取っていたファイルも小さくして保管しておけますし、デスク容量の節約にもなります。また、誰かにファイルを送るのにも、小さい容量なら、送る時間と相手のダウンロードする時間も節約できます。インターネット専用線でつなぎっぱなしの人は別にして、電話代の節約にもなります。ぜひ、これも試して下さい。

次回は TMC の津田さんも動めていた家庭内 LAN についてです。



StuffIt Lite™



Compact Pro



MacLHA.ppc 2.14



DropStuff™



日本語訳聖書翻訳比較研究

能城一郎

続き - イザヤ 30:18 - 「見出し」について

「口語訳」「新改訳」には、「見出し」がありませんでしたが、「新共同訳」には「見出し」があります。もちろん、前回から、参考にしてている「関根清三訳（イザヤ書）」にも「見出し」が付けられています。この「見出し」について、旧約聖書翻訳委員会ではその「凡例」で以下のように記しています。

訳文中の単元および段落は、マソラ学者による区切りや底本校訂者による段落づけをふまえた上で、訳者が自らの責任において設けたものである。段落は底本のそれよりはるかに多い。単元ごとの小見出しも訳者が付したもので、底本にはない。これらは聖書本文の脈絡や内容をよりよく理解して頂くために訳者が設けた、翻訳上の便宜措置である。

また、新共同訳の「凡例」では、以下のようです。

「小見出し」本文の内容区分ごとの概括的な理解を助ける趣旨から、一部の書を除き、小見出しをゴシック体で示した。

つまり「段落内の内容をひとことで書けば」ということです。この「段落の区分」もイザヤ書では、翻訳者（委員会）の苦勞のひとつです。関根清三氏は「第2イザヤ書」の注解で、以下のように述べています（参考書「序論」を参照）。

しかし第1部、2部それぞれの文学単元の構成については、諸説紛々である。かつては、ケーラーが70、フォルツは50というふうに細かく単元を分けていたが、近年はマレインパークが21、中沢治樹は、18、関根正雄は21というように比較的長い単元を想定する傾向がある。新共同訳も21単元に押さえ、この傾向を受け継いでいる。

ですから、たかが「見出し」ではすまされない問題なのです。以下は、前号で、見たイザヤ書 30:18-26 の「(小)見出し」を比較したものです。

「新共同訳」 救いの日

「関根正雄訳」 恵み

「関根清三訳」 恵みの日

また、イザヤ書注解書でこの箇所を調べてみます。(18-26節を単元と考えているもの、日本語で読めるもの、私の手元にあるもので調べた限りですが)

内村鑑三・・・残念ながら私の手元の資料には、

イザヤ30:18についての記事がありませんでした。

矢内原忠雄「救いの預言」

G.E.ライト「これは道だ、これに歩め」

C.R.サイツ「救いの確信」

関根正雄「救いの時」

O.カザー「ヤハウエを待ち望む人々に幸いあれ」
中沢治樹「恵みの時」
鈴木昌「あわれみを施す神」
山室軍平・・・段落分けせず「恵みを施す」に注目し「求める」こと「祈る」ことを教えています。

服部嘉明・・・段落分けせず、「まことに幸いなことであり、恵みに満ちあふれた祝福である。背を向けているような者にも、神は立ち返って来ることを願い、待っておられる。放蕩息子でさえも、悔いて帰って来る日を待っておられる神なのである（参照ルカ 15：20）」と解説する。

これで分ることは、イザヤ30:18-16の内容を「ひとことで」とお願いしても、教理面では「救い」、説教面では「恵み」、また、みことば記憶面では「これは、道だこれに歩め」・・・と、読み手の視点で多様性があるということです。

ここでいち牧師として興味が引かれるのは、関根正雄氏が「注解」では「救いの時」とし、私訳では、「恵み」とする点です。学術的な「イザヤ書注解」では、神学的用語「救い」を使い、ノンクリスチャンである一般の読者向けには「恵み」を使う点です。

まさに、聖書は、奥の深い読み物です。

関根清三氏にお会いし、「東bみ狼f見出しは、泊ちわびる」と同じ様に、深い洞察の末、選択されたのですか？」と恐る恐る質問しました。先生はニコット笑い、少々照れながら、「旧約聖書翻訳委員会の規定で、『訳文にある用語を見出しに使用する』という規定があったので、『恵み』にした分けです。新共同訳では、18-26節に『救い』という訳語はないと思います。」と答えて下さいました。

本誌で「日本語訳聖書翻訳比較研究」「日本語ワードスターディ」と聖書研究の方法を書いてきましたが、「見出し語比較研究」もそのひとつに加えてはいいかがでしょうか。

次回は、翻訳比較研究 - 中沢治樹訳 - です。

参考書（注解書）

内村鑑三「聖書注解全集 第6巻」 教文館 昭35

山室軍平「民衆の聖書 16」 教文館 昭47

矢内原忠雄「未発表聖書講義」 新地書房 1984年

関根正雄著作集 第8巻 新地書房 1986年

G.E.ライト(左近淑訳)「イザヤ書」日本基督教団出版局 1971年

新共同訳「旧約聖書注解」日本基督教団出版局 1994年

中沢治樹「新訳と略註 イザヤ書」 新教出版社 1990年
広田勝一訳 現代聖書注解「イザヤ書 1-39章」 日本基督教団出版局 1996年

並木浩一訳 ATD 旧約聖書注解 (18) 1981年

鈴木昌「イザヤ書」いのちのことば社 1989年

「聖書の達人」『実用聖書注解』 1995年

0 傳 揚 報 載

教会PC活用セミナー

(「J-ばいぶる」と「聖書の達人」を中心にした)

1998年2月9～11日

場所：恵みシャレー（軽井沢）

講師：堀川寛、能城一郎

問合わせ：恵みシャレー軽井沢セミナー部

電話 03-3353-9345 FAX 03-3359-6126

JB2「バグ報告」

JB2 - 32ビット版開発アドバイザーの中村和夫教授（西南学院大学神学部）からのご指摘で、文法解析データの「日本語表記」のミスが分かりました。

英語表記で「n-dm - s」が「名）与男複」となっていますが、「名）与男単」の誤りです。日本語で聖書ギリシャ語を学ばれた方々には、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。現在、この修正プログラムを作成中です。出来次第、cbecのHPにアップ致します。

その他、いくつか「ギリシャ語本文の表記ミス」等の報告が来ています。現在、32ビット版開発に向かい前進している所です。前進しながら、バグを修復しつつ32ビット版の完成に集中しています。お祈り下さい。（能城）

織田昭ギリシャ語辞典電子化

1月4日現在で、の部の校正が完了しました。先生のお体の為さらにお祈り下さい。（能城）

手塚治虫「聖書物語3巻」集英社 1996年11月



第1巻「天地創造」の「あとがき」は、手塚治虫プロダクション代表取締役「松谷孝征」氏が、「『聖書』テレビシリーズ化にあたって」、第2巻「十戒」では、監督「宮崎統」氏が「カインとアベル」、そして、この3巻「イエスの誕生」では、(財)

日本聖書協会総主事「佐藤邦宏」氏が、99パーセントのノン・クリスチャンをその視野にいれ、蘊蓄のある「『聖書』それは『人間の仕様書』」が掲載されている。

「聖書とはなんですか?」といわれた時、佐藤邦宏氏の文章を読んでおくならば、それは簡単なことです。宣教に、備えは必要です。「聖書とは」を宣教するには、必読の文書です。おすすめします。（能城）

「聖書クイズ王決定戦」ソフトと本の販売
日本初の聖書クイズソフトとその本を販売します。値段はゲームソフト・本共に、**送料込み¥1,000**です。郵便振替にご希望の品と数をご記入の上、ご送金下さい。「教会とコンピューター」の読者の方に限り、両方併せて5本以上お買い求めいただいた場合、1本¥800にさせていただきます。口座番号は

CBEC プレス

01340-3-47350

です。お申し込みお待ちしております。

編集後記

「教会とコンピューター」誌もいよいよ最後の年を迎えました。今回を含めて後五回でお終いです。足かけ三年も続けてきたのです。自分でもよくこんな面倒なことを、しかも一銭の儲けにもならないことをよくやってきたなあ、と感心しています。しかし、振り返ってみると、この三年間でキリスト教会のパソコン事情は大きく変わりました。パソコンを使う教職は増え、パソコンを使っていることがむしろ当たり前で、使えないことで肩身の狭い思いをしている人がいるぐらいです。本誌を創刊したときには考えられなかったことです。「時を得る」をはこういうことを言うんだなあ、とつくづく感じています。今毎日「J-ばいぶる」を使って聖書を研究し、「聖書の達人」でいろいろ調べている自分の姿が、なんだか夢のようでもあります。どんなことでも、夢と熱意と、仲間がいれば、不可能はないのだ、ということを教えられただけでも、この三年間の労苦は報われた気がします。なんだかこれで最後のような編集後記になってしまいましたが、あと四回、禪を締め直して頑張ります。

編集者 堀川 寛 (三滝グリーンチャペル牧師)

住所 広島市西区三滝本町2-10-24

FAX 082-237-7766

horikawa@ma1.seikyone.jpです。よろしく。

購読料などの振り込みは、郵便振替口座

聖書コンピュータ研究同好会 00100-4-146775